

大震災からの復興と原発ゼロで安心した社会を

日比谷公園での参加。CU東京「うつつ支部」の旗も見えました。右側の写真)



東日本大震災・福島第1原発事故から2年。3月10日、午前中から日比谷公園及び国会周辺を会場に、大震災復興・原発ゼロをめざす大規模な集会が開かれました。原発をなくす全国連絡会と首都圏反原発連合が集会と請願デモを行いました。参加者は主催者発表でのべ4万人。午後・夕刻、集会と東電や国会、関連各省への抗議行動もすすめられました。

被災者はいまも苦しんでいる

東京集会の演説舞台となった、宣伝カーには「今すぐ原発ゼロ」のスローガンが掲げられていた。福島のシイタケ生産者の放射能汚染の苦勞、宮城の地震・津波被害者への医療制度特例措置の延長要求や8割が生活再建できていない実情、茨城東海村のすぐさま廃炉要求の要請に知事は面会拒否など、悲痛な訴えがされた。

原発事故は収束していない

福島第1原発事故は、収束しているどころか、いまなお危険な状態。核燃料を冷やすための注水と地下水が原子炉建屋に流れ込んでいる。高濃度の放射能汚染水が毎日たまっている。1千トンの汚染水がはいるタンクが2日半でいっぱいになる。このタンクをはじめ大小

800ものタンクが原発敷地内に林立している。現在27万ト、限界は70万ト。あと2年半でタンク置き場がなくなる計算。(3/11しんぶん赤旗より) しかもこのタンク、当初は緊急につくったものがあり、改修が必要になってきている。(3/10東京新聞)

原発関連死

東京新聞(3/11記事)の報道、大震災・原発事故による被災者、死者15881人、行方不明者2668人、震災関連死2554人(うち原発関連死2554人)、避難者315,196人とある。福島県内の集計からは、原発事故の影響が深刻。避難長期化・ストレス体調悪化などによる死亡ケースを原発関連死と定義しています。

大震災・原発事故から2年となる日、マスコミ各社が被災者や被災地の状況を伝えていた。マイクを向けられた年配の女性は、「頑張っていく、(福島を)忘れないで」と語っている。ある男性は復元は、まだまだ「瓦礫が片付いただけ」住まい、仕事の再建めどについて顔を曇らしていた。

国の復興事業、この人たちに「生きる施策」を早くすすめるべきだろう。